

初空や戰捷國の旭の光り  
井戸端で御慶申しぬ裏長屋  
年玉や年々殖える得意先  
破魔弓ややがて御國の名取草  
九重に鶴一と聲や初日の出

◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎  
◎◎◎

ミナサン ワタシワ キゲンセツノ オユワ  
イニ ハイクラ ツノリマスカラ ゴサンセイ  
ノオカタワ ドーカ オクツツテ クダサイ  
テンチ ジンノ 三メイニ ビケイヲ アゲマ  
ス  
◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎  
チユーイ ナサルコト  
一、カダイ ◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎  
サクヲ、ツパメ、キゲンセツ、  
一、シメキリ 一ガツ パツジツ カギリ

一、ヒロー 二ガツ モシクワ 三ガツノ ホ

ンシノ ヨハクヲ カリテ

一、エラブヒト ラクテンドー ガクヨー

一、トバケシヨ トーキョーシ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎  
コイシカワク

トーキョー モーア ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎ ◎◎◎◎  
ガツコー ウチ

ライツガクヨー アテノ コト

一、コノホカノ コトワ フレーベルカイ ハ

イクキテイニ スコシモ カワラナイ

### 白 菊

(甲府市魚町小林軒方  
すみれ會詩稿)

跡部さと子

あらしさわぐ高ねも晴れてふもとちのむら霧わた  
るその朝ぼらけ

一本の白菊いつか匂ひつゝ袖にかつちる有明の月

鞠丸千代子

手折らむと足つまだてし少女子の玉手はづれて散

るもみぢかな

秋山きん子

夕暮ゆうぐれをなにはなしに悲かなしくてまたもの思おもふ秋風あきかぜ  
のあと

村松竹の

紅葉もみぢ匂におふ山やまの下路しげ日は落おちちていよ／＼しげし村雨むら  
の音ね

をちこちの紅葉もみぢの色いろに誘よほはれて家路いへぢも漫そとろ日は暮く  
れむとす

長坂きよ子

功こうはくちじ幾いく千代ちよ

いとけなき幼子おなごさへも戦死者せんしの高たかきはまれに注そぐ  
今日けふあはれ

長谷川みつ子

ときこのゑ火はづつつの音ねもさゝ馴なれて露あ營えいの夢ゆめの美うつく

しきかな

長谷川菊子

小山やまなすかばねふみこえ血潮ちしほながす川かはうち渡わたり進すす  
むますらを

西川静江

年とし若わかき妻つまを遺あさつる奥津城おくつぎの遼陽りやうやうわたり風かぜ又また寒さむさ  
夕暮ゆうぐれを空そら美うつくしき椅子山いすざんのあたかもみぢば散ちること  
しげき

村松下枝

村雨むらは止とし梢こまにおく露つゆをはら／＼散ちらす秋あきの朝あさ  
風かぜ

天てんも地ちもらす夕ゆうもやにつゝまれて漫そとろになりぬ寺てら  
の鐘かねいくつ

跡部富士子

さりとくす聲こゑさへかれて寒さむき夜よをひとりつれなく

なきあかすあはれ

さゝやかな庭のをちこちさまよひの少女の袖に萩の花ちる

青木とし子

山寺の庭の萩原露かちて若き御僧のたもとぬらしけり

みどり

益良雄を波止場にかくる夕ぐれの漫ろにさむし冬の黒潮

撫子

虫の音もいつか枯れ果てし秋の野に誰ぞやまねかひ尾花はすさき

萩子

しづの男も歸る山路の夕紅葉ひと枝を折りて家づとにせむ

薄紅葉

夕暮の鐘の音微か文の窓にわはれを添へてさびしかりけり

さくら

文の窓にはらくかゝるもみち葉は今宵を何のたよりなるべし

みぎは

汚れつる世をや忘れて母のみ許清き里わに行かましく今宵（ある夜なき母を懐いて）

梨子

かなしともまた樂しとも見る人のこゝろ心に澄める月かな

いく子

山寺のかねの音わたる林かげかち葉さらさら夕暮とむし

さ だ 子

いかにせまし今日を訪ひ來し草に木に雨よりしげ  
き露の白玉

た つ 子

美しく霜をしのぎておのれのみ笑みて匂へる白菊  
の花

山 吹

龍田姫はらふ秋やかもからむ秋の野末に雨細う降  
る

聴 子

夕かぜにもろく落ちつる木の葉さへ真心の色はな  
ほかはらざり

山の紅葉やどの軒端の其れならば折りても人に見  
せましものを

母 の 人

六十四

ささやけき罫にひとり山鳥のしのび音誰かわはれ  
とやみむ

夏漫る秋さへいつか風あらし冬之夜さむをひとり  
物思ふ

わづらひのつらき臥戸の遠近をねに行く鳥三つ四  
つ幾つ

▲ ▲ ▲

行く雁の羽袖しばしを兎にも角にも君がみ許に朝  
夕われは

かもひわぶ思ひに今日くるしきを人住むさとに言  
づて遣らむ

○

秋の日、考妣のみ墓にまうでて  
かもはへど手向しえせぬ罪の子に一枝は許せ小萩

むらたれぬ

いくもゝ重へだて呼ぶごとと妣のみ聲ひびき木枯奥津城どころ

夜すがらをかへらぬ夢に待ちわびて見出でし星をまた失ひぬ

さむくつらき風に木枯たゆたへなこのねくつきに考ねむります

白露の今朝ときめて消えて行きてやがてあとなくて我れねばる也

ゆくべくは行かるべき路漫ろにて宵の村雨また強うなりぬ

くさむらに虫はすだけど物し言はぬ考妣こひしこの草むらに

時としてあらぬ行手に迷ひては歎つもあるか我が世ひとの世

### 保育者のため

#### 行進遊嬉について

中村五 六

此處に行進と云ふのは、マーチングの謂にて、一般にはマーチと稱へ、運動遊嬉の一種として、諸所の學校や幼稚園にて廣く行はれあるものなり。其實演の方法は、種々あれども、幼稚園に行はるゝものは數多の幼兒を一行或は二行となし、教師其先頭に立ち種々の動作をなして、幼兒に之を模爲せしめながら行進するものにて、行進中の動作は、手を拍ち又は相摩すること、腕を前方或は左右に伸出し又は之を伸縮すること、手腕にて翼はたきの眞似をなすことなどありて一定せず、